マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」♯２４原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」＃２４原作シナリオ

＃１　保育所・玄関(朝)
　女装したオネエ所長が菜摘を連れて入ってくる。
オネエ所長「(お弁当袋を菜摘に渡し)今日はキャラ弁だからね。行ってらっしゃい！(菜摘を見送って保育所を出て行く)」
　菜摘のもとに数人の男児が駆け寄ってきた。
男児たち「(菜摘を囃し立て)なっちのママはオネエ、なっちのママはオネエ！」
菜摘「(半泣きで)おじちゃんはなっちのママじゃないもん！」

＃２　同・庭
　園児たちが遊ぶ庭の片隅で、泣いている菜摘。
男の声「なっちをイジメたガキんちょども、呪い殺してあげようか」
　菜摘、振り返ると、微笑むトオルが立っている。
菜摘「(怪訝に)トオルちゃん？」
トオル「あはは。いまのは冗談だから本気にしないでね」
菜摘「トオルちゃん！」
　突進してトオルに抱きつこうとするが、トオルを突き抜けて前のめりに転ぶ菜摘。
トオル「ごめんね、なっち。オレ、幽霊なんだ。お盆にはちょっと早いけど」

＃３　オネエ所長のマンション・菜摘の部屋(夜)
　菜摘とトオルが話している。
菜摘「天国のおばあちゃんに会った？」
トオル「天国には行けなかったんだよ。未練がたくさんあると天国には入れないみたい」

＃４　部屋の外
　室内から聞こえる話し声に耳を傾けているオネエ所長。
オネエ所長「なっちはまたお人形と話してるのね‥‥あら」
　廊下の隅に置かれた菜摘の人形。
オネエ所長「(思わずドアを開けて)‥‥」

＃５　菜摘の部屋
　一人で楽しそうに話している菜摘。
オネエ所長「なっち、誰と話してるの？」
菜摘「(うれしそうに)トオルちゃん！」
オネエ所長「(顔色を変えて)つまんないウソ言わないの！」
菜摘「ウソじゃないもん！　トオルちゃん、ここにいるもん！」

　しかしオネエ所長の目には、室内にいるのは菜摘と自分自身だけ。
オネエ所長「いい加減にしなさい！」
菜摘「(泣き出して)トオルちゃん、ここにいるもん！」
　×　　×
　サオリの前に、菜摘とトオルが立っている。
オネエ所長「突然呼び出してごめん。サオリにはトオルちゃんが見える？」
トオル「(サオリにニッコリＶサインして)‥‥」
サオリ「(硬い表情で)‥‥見えない」
オネエ所長「(菜摘に)ほら、サオリにだって見えないのよ。なのに、なっちはどうしてそんなウソ言うの！」
菜摘「ウソじゃないもん！」
サオリ「‥‥なっちが『見える』って言うなら、見えるのよ」
オネエ所長「え？」
サオリ「おっさんがなっちを信じてあげなきゃ誰が信じてあげるの。おっさん、なっちの母親代わりなんでしょ」
オネエ所長「だけど‥‥」
トオル「サオリさん、なっちの味方になってくれてありがとう」
サオリ「(トオルにそっぽを向いて)‥‥」
トオル「やだな、サオリさん。オレのこと見えてますよね。さっきオレと目が合った時、目をそらしたじゃないですか」
サオリ「話しかけるな！　あたしは心霊現象が苦手なんだ！」
オネエ所長「(目を丸くして)何何！　サオリにもトオルちゃんが見えるの！」
菜摘「(笑顔を弾けさせ)ほらね、ウソじゃなかったでしょ！」
オネエ所長「(オロオロして誰もいない空間に向かって)どうしてあたしにだけ見えないの？　水臭いじゃない、トオルちゃん！」

＃６　「居酒屋まわりみち」(別の日の夕方)
　同伴の客を伴って入ってくる出勤姿の美鈴とあかり。
　店内にはオネエ所長、菜摘、サオリもいる。
アヤカ「(威勢良く)いらっしゃい、美鈴さん！　あかりさん！」
あかり「(座って隣の美鈴に)アヤカちゃん、やっとトオルさんのこと吹っ切れたみたいね」
美鈴「そんな簡単に吹っ切れるわけない。あれは空元気」
　別の席の菜摘がキョロキョロしている。
オネエ所長「(声を潜めて菜摘に)もしかして、トオルちゃんがいるの？」
菜摘「うん。でも、だれも見えてないみたい」
　カウンター席の隅に座って、アヤカを見つめているトオル。
オネエ所長「(菜摘に耳打ちし)トオルちゃんがいること、アヤカに言っちゃだめよ」

菜摘「どうして？」
オネエ所長「アヤカが悲しむから」
菜摘「分かった」
サオリ「(ぼそっと)見えてる人がもう一人、いるみたい」
オネエ所長・菜摘「(思わずトオルの方を見て)‥‥」
　トオルに話しかけているキヨさん。
キヨさん「あんちゃん、最近よく店でお見かけしますな。ま、お近づきに一杯(とビールを注ごうとする)」
　そんなキヨさんの姿を見ているアヤカと末吉。二人にはキヨさんが空席に向かって話しているとしか見えない。
末吉「(しみじみと)キヨさんの認知症もずいぶん進んだなあ」
アヤカ「ですね」

＃７　海の見える墓地(別の日の昼)
　花束を抱えたアヤカがやってくる。
　とある墓石の前にひざまずいたアヤカが手を合わせる。
　真摯に祈っているアヤカ。
アヤカのＯＦＦ「トオルさん、元気でやっていますか。お父さんと会えましたか。天国は素敵なところですか‥‥あなたのことを思い出さない日はありません。でも思い出が少なすぎる。せめてもっと思い出がほしかった」
　そんなアヤカの傍らに立ち、見つめているトオル。
トオルのＯＦＦ「オレはここにいるよ。でも君には見えないんだね‥‥死んでいるのに、どうしてこんなに胸が苦しいのだろう」
　その時、アヤカの頬を伝う一筋の涙。
　トオルが指を伸ばし、その涙を掬おうとするが、トオルの指をすり抜けていく涙。
アヤカ「(立ち上がって)また来ます、トオルさん」
　踵を返して、墓地の石畳を歩いていくアヤカ。
　その後ろ姿を見送るしかないトオル。

＃８　夜空に広がる花火(別の日の夜)
　河川敷で群衆に交じって花火を見上げている浴衣姿のアヤカ。
アヤカのＯＦＦ「去年の花火大会、あたしの隣にはトオルさんがいた‥‥」
　×　　×
　インサート。
　トオルやオネエ所長、菜摘とともに花火を見ているアヤカ。
　×　　×
アヤカのＯＦＦ「トオルさん、天国から花火見てるかな。この花火がトオルさんの迎え火になれ

ばいいのに」

目に涙を一杯ためたアヤカ。その隣で花火を見上げているトオル。

アヤカ、トオルの存在に気付かない。